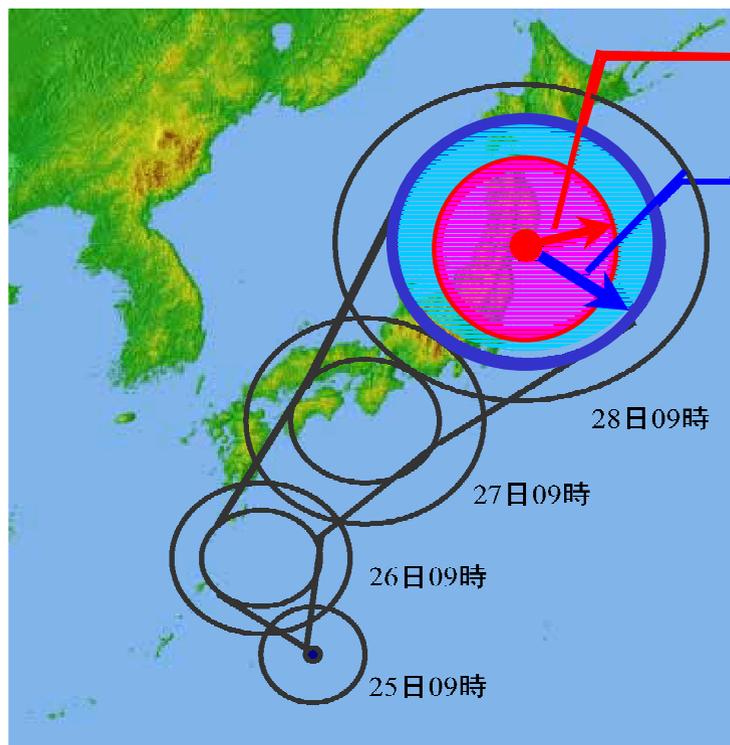


台風予報の精度(台風中心位置の予報誤差)

台風中心位置の72時間先の予報誤差* を、H17年までにH12年と比べ約20%改善し、360kmにする。

* 当該年を含む過去3年間の平均

なお、72時間予報の改善は予報技術を代表するものであり、24時間予報、48時間予報の改善状況は次ページのとおり。



360km(H17年) (目標値)

374km(H15年)

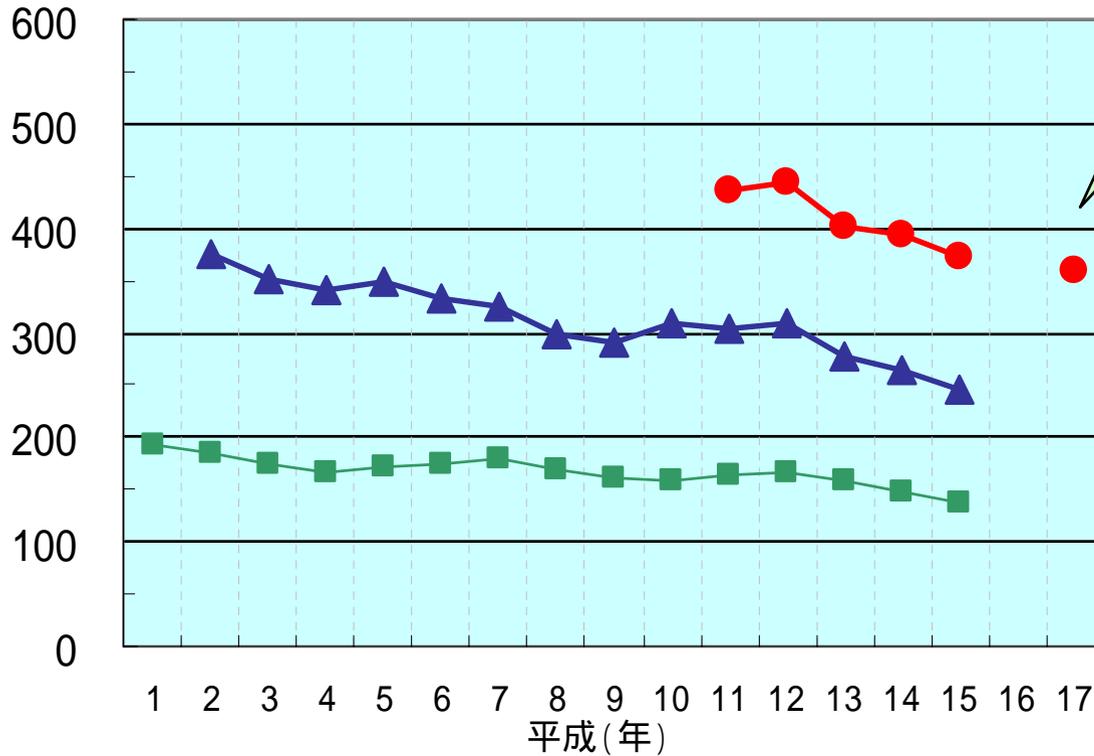
443km(H12年)

- ・災害による被害の軽減
- ・効果的、効率的な防災対策

台風中心位置の予
報誤差 (km)

台風中心位置の予報精度

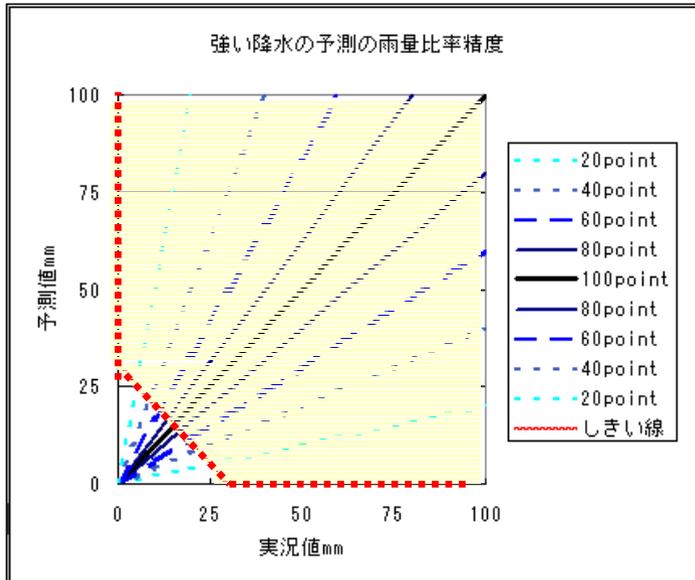
17年目標
360km



- 72時間予報 (3年平均)
- ▲ 48時間予報 (3年平均)
- 24時間予報 (3年平均)
- 17年目標 (72時間予報)

大雨警報のための雨量予測精度

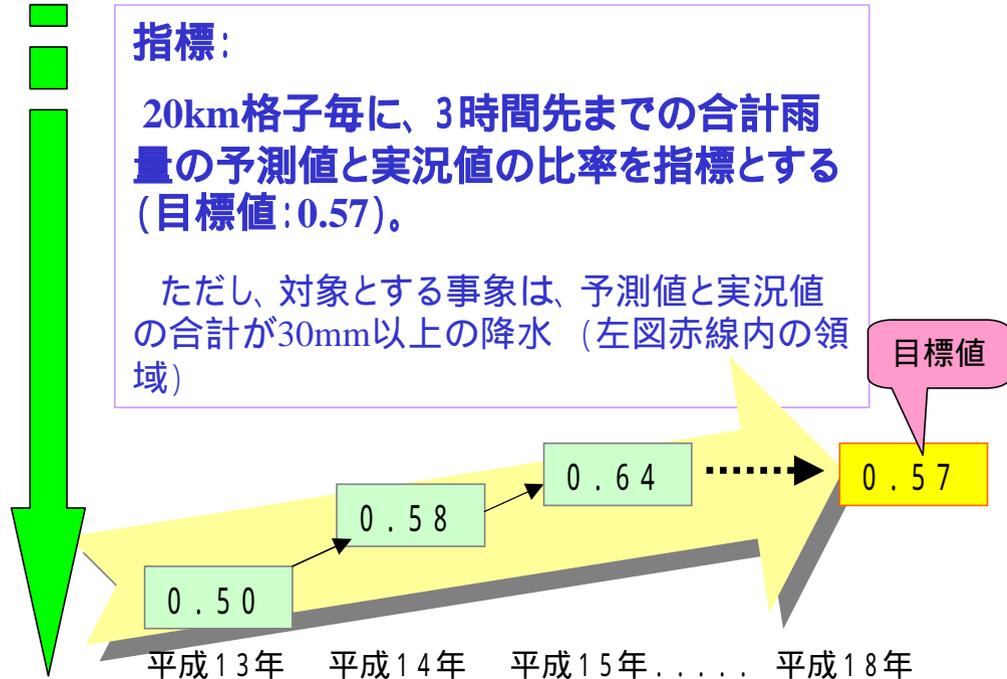
3時間先までの雨量予測値精度を14%改善



指標:

20km格子毎に、3時間先までの合計雨量の予測値と実況値の比率を指標とする (目標値:0.57)。

ただし、対象とする事象は、予測値と実況値の合計が30mm以上の降水 (左図赤線内の領域)



土砂災害・水害対策等の防災活動

降雨に関する情報の充実・改善

ー降水ナウキャストについてー

都市部を中心とした洪水・浸水等の急激に発生する豪雨による被害の軽減

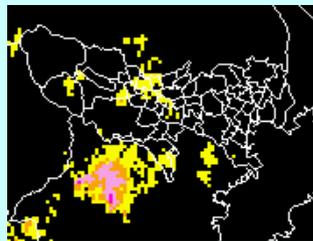


(レーダー)

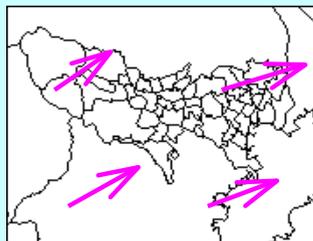


(アメダス)

レーダー全国合成

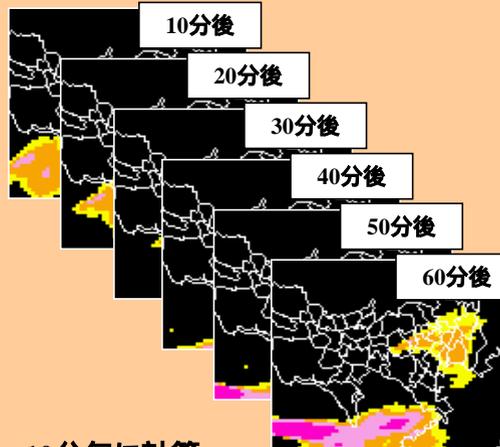


雨域移動情報



降水ナウキャスト

観測直後から10分間隔で
1時間後までの雨量の予測情報



10分毎に計算
(急激に発達した降水に即応)

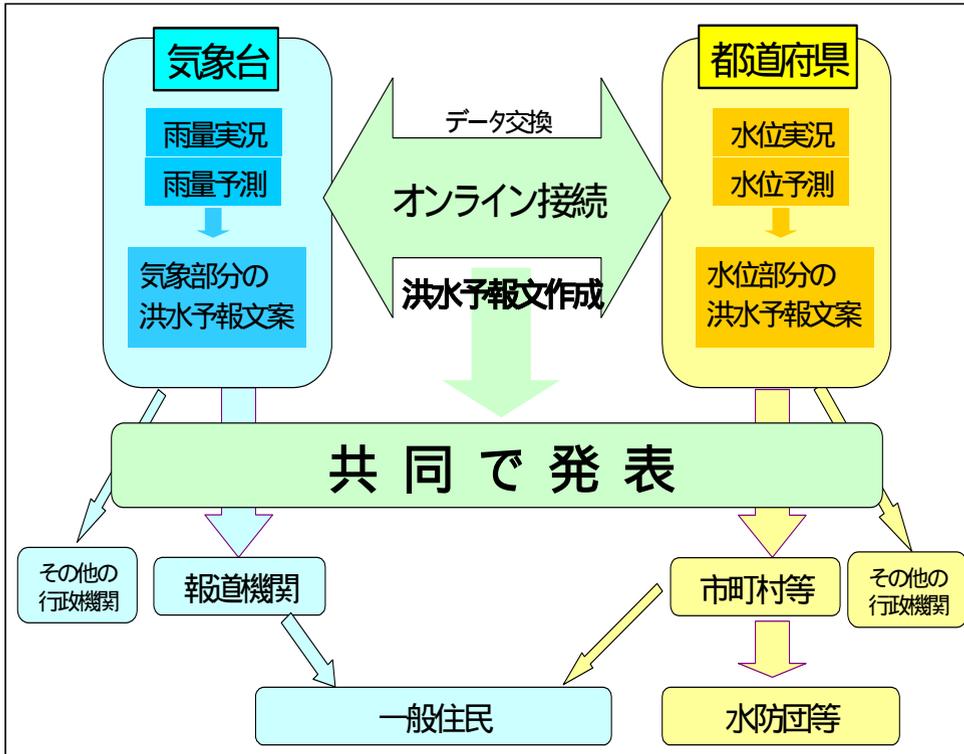
防災体制
立ち上げの
迅速化

住民の迅
速な避難

・観測 3 分後までに出力
・GIS等高度利用対応のため
基準地域メッシュ

豪雨水害対策のための気象情報の改善（平成15年度の実績）

共同洪水予報の仕組み



共同洪水予報の実施

平成14年度

愛知県(1河川)

岐阜県(2河川)

静岡県(2河川)

平成15年度:

青森県(2河川) 大阪府(4河川)

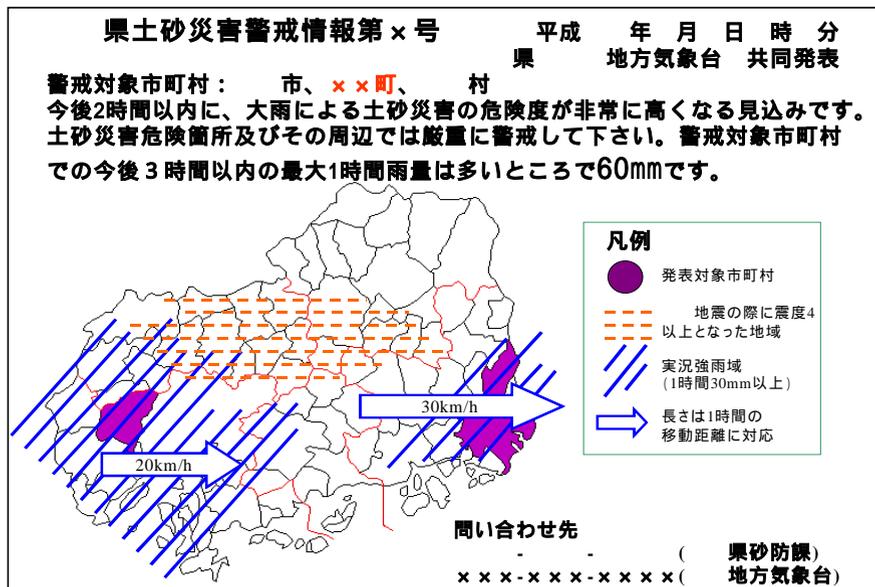
山口県(2河川) 新潟県(1河川)

和歌山県(2河川) 岐阜県(1河川)

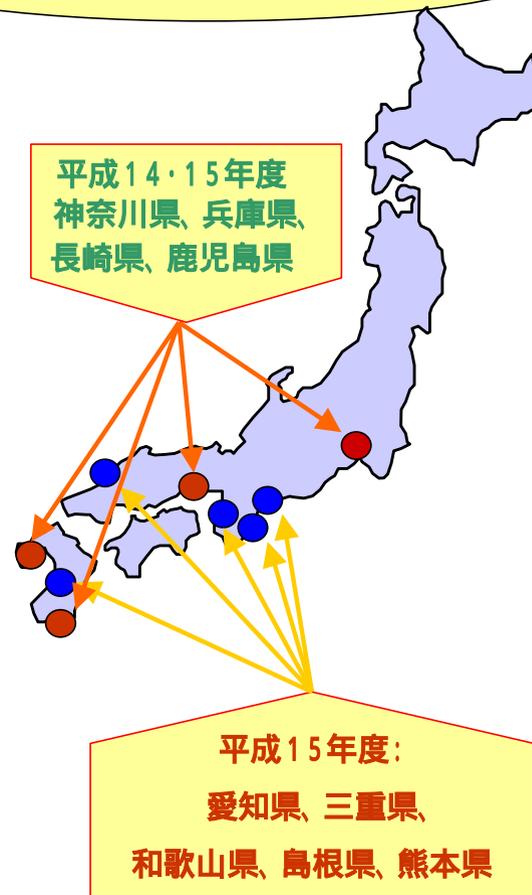
土砂災害対策のための防災気象情報の改善

(平成15年度の実績)

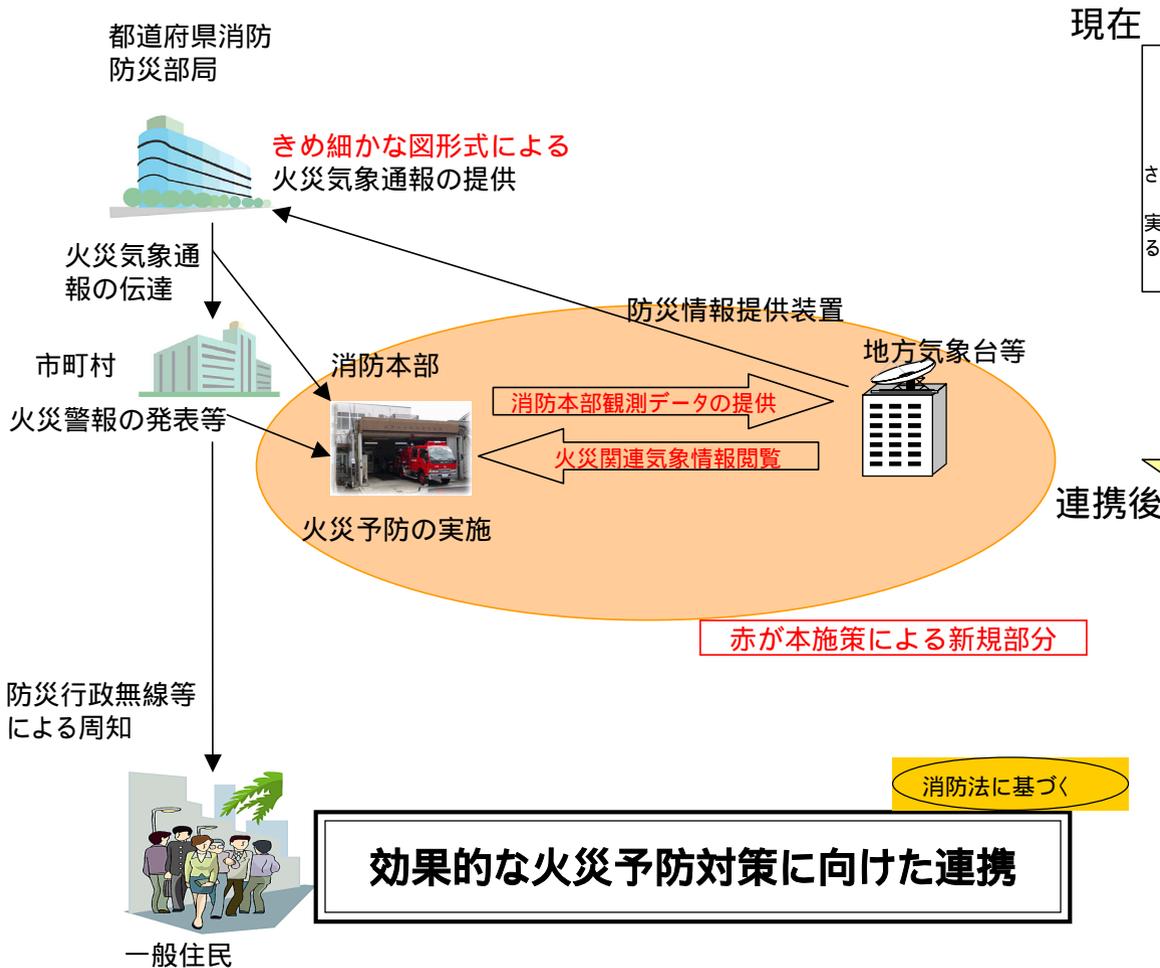
土砂災害警戒情報



土砂災害警戒情報試行の実施



林野火災等の予防対策のための気象通報の改善



現在

県火災気象通報 平成15年10月21日
地方気象台

県では、火災の発生しやすい気象状況が予想されます。

実効湿度50%以下で、最小湿度が25%以下になると予想されます

注意対象地域の絞り込み
注意対象地域が一目でわかる
図情報の提供

栃木県火災気象通報

平成16年2月23日 13時30分
宇都宮地方気象台 発表

【注意文】
これから数日にかけて南よりの強い強風が吹きますので、県南部では火災の発生しやすい気象状態になります。

【警報の予想と注意区分】

一次観測所	二次観測所	分庁別	予想される最大風速とその風向	予想される最小湿度	予想される実効湿度	注意区分
南部	県南部	10	南東	15	40	注意区分A
県南部	県南部	5	南	30	30	注意区分B
県西部	県西部	5	南東	25	40	注意区分B
北部	県北部	5	南	25	40	注意区分B
日光地域	県	10	南	50	60	注意区分C

※解説(注意区分の種類と解釈)
最も危険でない場合は、注意区分に該当する気象状態にはならないと予想したことを意味します。
A:実効湿度が60%以下で最小湿度が50%以下となり、最大風速が毎時15m以上吹くときと予想されるとき。
B:実効湿度が60%以下で最小湿度が50%以下になると予想されるとき。
C:平均風速が12m以上吹くときと予想されるとき。

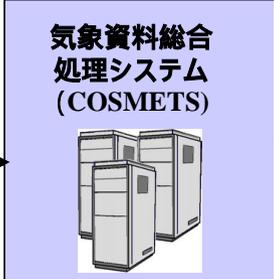
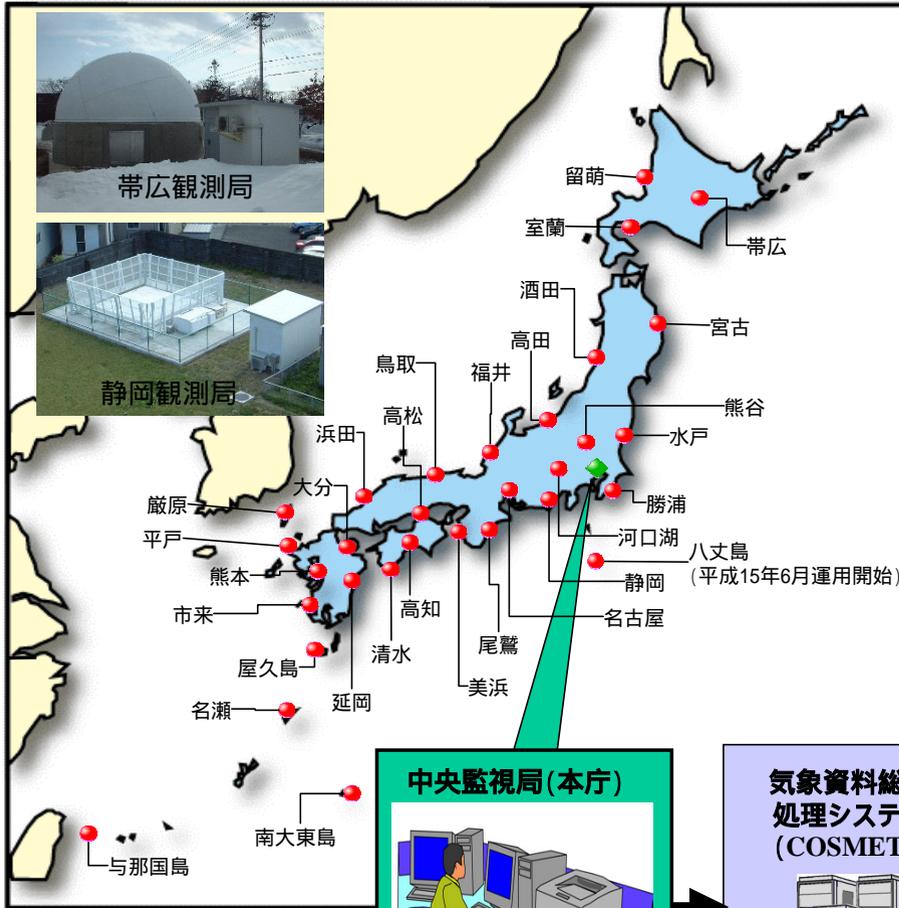
【火災気象注意対象地域】

日光地域 那須地域 県西部 県南部 県東部

問い合わせ先: 宇都宮地方気象台技術課
△△△-△△△-△△△△△

- * 火災気象通報の高度化のための消防庁・気象庁連携
- * 地方自治体(消防本部)と気象台の観測データ共有によるきめこまかな図形式通報の実現

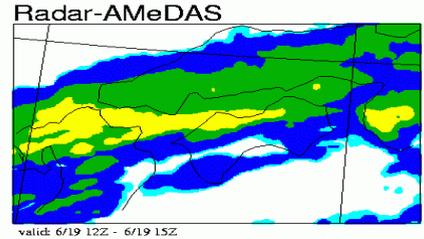
ウィンドプロファイラによる高層風観測



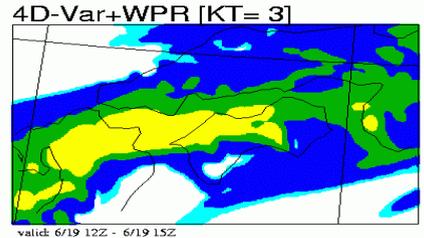
局地現象に対する

- ・数値予報の精度向上
- ・監視の高度化

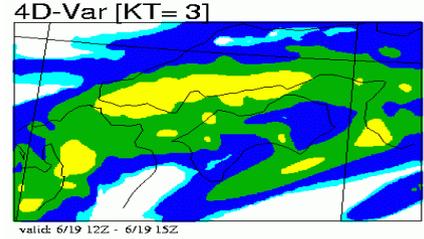
実況観測値



予測値
ウィンドプロファイラを使用
強雨域の
対応が良い



予測値
ウィンドプロファイラを不使用
強雨域が
北にずれている



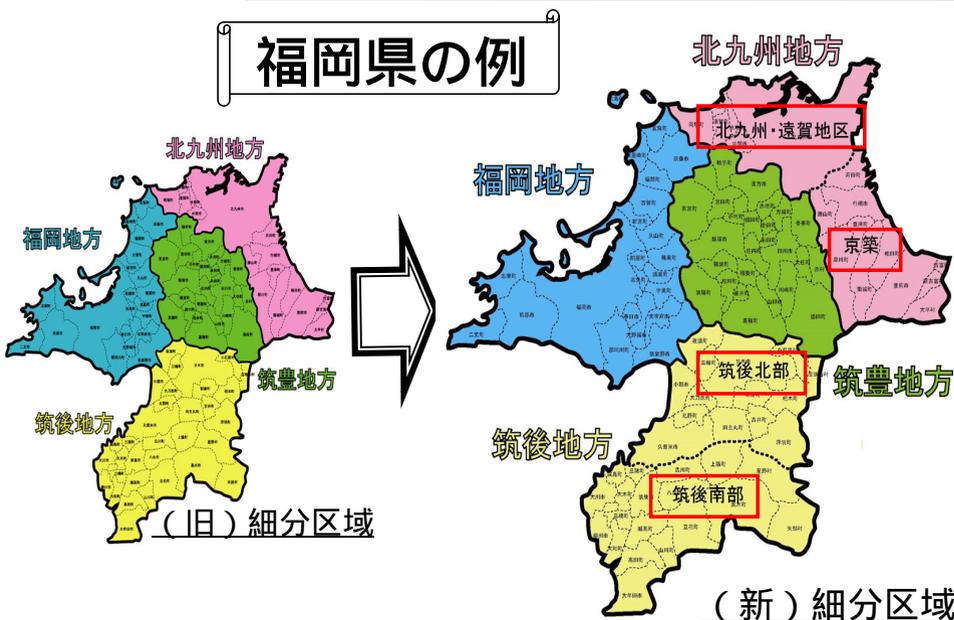
青: 1mm以上 緑: 10mm以上 黄: 30mm以上

気象警報等の発表する二次細分区域

気象庁では、地方自治体における防災活動を支援するため、きめ細かな防災気象情報の発表を推進している。注警報区域についても細分化を進めており、平成15年度は以下のとおり実施した。

	平成13年度末	平成15年度目標	平成15年度末実績
細分化した予報区数	47	55以上	55
全国の二次細分区域数	294	-	362

福岡県の例



きめ細かな防災情報の発表
気象庁の役割



最近の全国の二次細分区域数の変遷

平成11年度末	平成12年度末	平成13年度末	平成14年度末	平成15年度末
213	226	294	356	362